

北海道当別高等学校（園芸デザイン科）の行動計画（グローバル・アグリハイスクール宣言 Part II）

全国の農業高校の行動計画		学校において令和6年度に重点化する取組及び具体的方策			
「5つのミッション」	「8の行動計画」	行動計画の中で重点化する取組	実現状況	課題	評価
I グローバル教育で人材を育てる学校	1 「生徒一人ひとりを一層輝かせ成長させる教育」を行います。	(1)総探学習の中で地元当別の歴史や農業を学ぶ中で、課題解決力や創造力を育成する。 (2)農業クラブの各行事を通して、生徒の積極性や協調性を高める。	(1)1年総探で当別町を知る学習を行った。2年インターシップは地元農家で行えた。 (2)学年の垣根を越えて各行事でお互いを高めあえた。外部の販売会等にも積極的に参加する生徒が増えた。	学科の総探授業をしつかり残す。インターシップの効果を高める＝事前・事後指導の徹底。行事精選。（内容をリニューアルさせる）教員自身も地域を知り、連携へ繋がる機会に積極的に関与する。	3
	2 「世界と日本をつなぐグローバル教育」を行います。	(1)当別町から北海道、そして日本農業の現状を提示して、世界の農業（食料生産の重要性）や環境問題に関心を持たせる。	(1)授業で世界情勢や農業問題を取り上げたり、各専攻班で地域課題を意識した活動を行えるようになった。 米袋デザイン講座を通し環境配慮やQRコードによる情報発信について理解を深められた。	各授業の中で、更に行事等を組んで、日本農業が抱える問題に触れ、考える機会を意識的に設けていく。（講演会等の企画） ICT、農業新聞等の活用の模索。	3
II 地域社会・産業に寄与する学校	3 「地域農業の生産を支える教育」を行います。	(1)当別高校圃場環境に適した野菜・作物等を試作栽培すると共に、多品目栽培・省力栽培で利益をあげることを考える。（本校の活動PR）	(1)野菜と作物の教科開始に合わせ圃場分離。限られた条件（予算・圃場）で学習と生産性の向上を目指した。郵便局・ふれあい倉庫等で販路拡大。(2)アグリノートによる記録管理→情報共有化への取組。	(1)R8年度の授業カリキュラムに合わせた予算・圃場作付け計画と移行。生産物の品質向上、圃場管理の省力化と技術向上。販売会等を通し本学科の活動PR。(2)生徒主導による記録管理。実発等へのデータ利用。	4
	4 「地域の農業関連産業や6次産業化に寄与する教育」を行います。	(1)当別町は稲作が盛んで、本校も40a程作付けしている。その際に発生するくず米を有効活用する研究。くず米を使った加工品の試作を経て完成を目指す。 (2)産官学連携事業によって、環境に配慮した素材を使った米袋デザインや販売に関わる。	(1)α化米粉の加工研究を進め「道の駅」冷凍バケツケキ、本校トトを原料としたジュースを販売。(2)米袋デザインと販売実習を通して、生産から加工、販売まで広い視野を持つ機会を得ることができた。	(1)各専攻班、各授業で6次産業化学習を進める。 (2)産官学連携事業を深化させ、多角的な視点で新たに教育的効果のある企画を考える。	5
III 地球環境を守り創造する学校	5 「地球環境を守り、創造する教育」を行います。	(1)当別高校圃場の一部で、化学農薬に頼らない病害虫・雑草防除に取組む。 (2)圃場の生物多様性を保護・拡大する (3)農場の残渣物で堆肥づくりを行う。	(1)化学農薬減、環境・経営に優しい農業へ転換。生産物の品質向上。 (2)通路・法面等の草刈保存。みどり戦略学生フェレンジに応募。(3)腐葉土作り開始。持続可能な農業生産と循環システムづくり。	持続可能な農業。循環システムづくり。澆き込み・腐葉土作り/堆肥化・草花用土の消毒で化学農薬使用を減らし、環境・経営に優しい農業への転換＝化学農薬に頼らない病害虫・雑草防除管理に取組む。	5
	6 「地域資源を活用し、地域振興の拠点となる教育」を行います。	(1)当別町の特産品である「亜麻」に関する研究や関連活動に参加する。 (2)くず米活用を地域産業へ提案。 (3)地域の農業課題に向けた研究活動の実施。	(1)当別町花壇（亜麻苗提供）造成。亜麻祭り・石けんづくり。 (2)くず米の利用研究。QRコードを使ったアンケート調査（データ収集）等。 (3)ビーツ・ケイロ・里芋等の栽培（作物/品種の比較）等の研究。	草花・野菜・作物・加工の各研究班で、地域課題や地域振興に関わっていけるよう生徒と共に積極的に外へ出て行く。	4
IV 地域交流の拠点となる学校	7 「Society5.0の時代に応じた教育」を行います。	(1)産官学連携事業を深化させ、様々な視点からキャリア教育を試みる。 (2)販売会、寄せ植え講習会、田植え・稲刈り交流会等を開催。（町民・幼稚園児等）	(1)農業から派生する様々な職種分野について見識を深める。今年度新たに無印良品フェアやふれあい倉庫での加工品販売等を企画し参加。(2)スマート農業の深化（2月：アグリノートを活用した農業経営学習等）	進路選択を広げる活動の場を更に設ける。各種、行事の内容を生徒主体で改善。産官学連携事業の結びつき強化。還元できることを、産官の方を借りながら増やす。スマート農業学習の深化。	4
V 地域防災を推進する学校	8 「地域防災を推進する教育」を行います。	(1)本校生徒のみならず、町民の方々が雪の事故等に遭わないよう注意喚起する。 (2)交通安全キャンペーンへの参加。	(1)毎日の授業やSHRで事故防止や防災等の意識づけを行う。農場の危険場所等の改善・意識づけ。 (2)交通安全キャンペーン参加（農務）。除雪ボランティアに生徒参加を促す。	普段の生活や実習・授業で、危険予知・予防の意識づけを継続して行う。 設備整備の要望継続。 実習現場等の整理・整頓と修繕を進める。	3